

このとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会

第17号(29) 2022年3月31日発行
(発行部数 400部)

発行責任者 國廣 晴美
編集責任者 奥 陽子



〒650-0011
神戸市中央区下山手通5丁目8-14
山手グレイハイツ305号

TEL: 078-362-1310(月～金) 10:00～16:00

FAX: 078-362-2737(24時間)

Email: info@hyogo-josanshikai.com

HP: http://hyogo-josanshikai.com/

ごあいさつ



時代に適応し発展を続ける兵庫県助産師会

副会長 谷川 裕子

寒さも緩み、春が近づいてまいりました。皆様お健やかに過ごしのことと存じます。日頃より、本会の事業にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

2021年度は、新しい取り組みをスタートさせた1年でした。

コロナ禍で様々な制約がある中、オンラインの活用が定着したことで、会議や研修に参加しやすくなり、近畿地区研修会や文化祭、各専門部会集会などでは、兵庫県下どこにいても会員同士が交流できる機会が増えました。また、新規事業として育児中のお母さん達への「オンライン子育てわくわく Time」や「妊娠・子育て電話相談」を開設しました。さらに Facebook、Instagram による、タイムリーな情報発信ができるようになりました。それぞれの事業を企画運営していただいている委員会の皆様に感謝いたします。また、12月より神戸市訪問型産後ケア事業を受託し事業が開始しました。多くの方からの利用申し込みがあり、登録助産師による家庭訪問が神戸市内全域で行われています。

次年度、本会は90周年を迎えます。古き良き助産師のわざと魂を大切にしながら、変化する社会の中で、引き続き助産師が生き生きと活躍するとともに、本会の事業がますます発展するよう、皆様のご協力をお願いいたします。



← Instagramはこちらから

文化祭報告



今年も Zoom で開催しました

文化祭企画委員 打越 リカ

今年度の文化祭は、「おうちでプレママプレパパセミナー ～コロナ禍でもあなたのそばに助産師がいます～」をテーマに Zoom で開催しました。

第1部では、これから出産を迎えるご夫婦を対象に開催しました。出産を終えたお母さん達からのメッセージ入り写真による「いのち」のスライドショーやマタニティヨガを行いました。また、妊娠・出産を楽しむ助産師の知恵袋と題して、産後に活用できるサポートや夫婦のコミュニケーションのコツを紹介しました。「助産師とトーク」のコーナーでは活発なトークができて楽しい時間を過ごすことができました。コロナ禍で不安に思う妊婦さんに対して少しばかりエールを送ることができたと思います。協力してくださった皆様には心より感謝申し上げます。

第2部では、本会会員を対象に開催しました。コロナ禍で母子にどんな支援が必要か、助産師会としてできることは何か、をディスカッションしました。今こそ助産師が一致団結し、母子に寄り添ったケアを提供していけたらと思います。

近畿地区研修会報告

初めて近畿地区研修会企画委員として研修会に参加して

企画委員は、アナログ人間の私にとって無謀な挑戦ではありましたが、振り返ってみれば、さながら大人の文化祭のような出来事で、独りの力では到底成し得ない事も、チームで取り組む事で、思わぬ成果が生まれ、気づけば全員が一つになれた感動の体験となりました。（茨木 敦子）

「オンライン研修会をライブで2日間。自分達で」と聞かされ、会議の度に膨らんでいく不安と焦り。「そんなの無理！業者じゃないんだから」と心の中で叫ぶ私。だが「わからなければ調べ、できなければ協力し合えばいい」と熱意と行動力で不可能が可能に変わり、最後は笑顔でやり遂げる。助産師って凄い！と心底感服した経験でした。（森田 陽子）

初めての Zoom 会議、企画書作り、委員や講師とのメールのやりとり、不安でいっぱいでした。ひとつひとつ担当理事に助言をいただきやり遂げる事ができました。委員の方々、講師の皆様との出会いに感謝、貴重な体験となりました。ありがとうございました。（松尾 明美）



委員会報告

教育委員会 ～オンライン研修を企画運営してみたこと～

教育委員長 廣谷 薫

教育委員会では研修会に参加する事で今までの知識をブラッシュアップし、自信をもって充実したケアができる、そんな思いを一人でも多くの助産師さん達に提供したく、部会・委員会の協力もいただき研修の企画を考えてきました。委員会のメンバーの思いも熱く、よりよい研修を目指して軌道修正をすることもあり、研修日時の告知が遅れてしまい会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。今年度は、ラリンジアルマスクの使用を取り入れたNCPR研修や産後ケア実地研修も開催し、施設や地域で活動されている助産師の方々のスキルアップに繋がっていると思います。各研修後のアンケートからも高評価をいただきました。

コロナ禍のためにオンライン研修を昨年度から開催しています。いつ何時何が起こるかわからない不規則勤務である助産師としては（会場までの移動時間を含め）長時間職場を空けずに学べることは利点の一つと考えています。しかし、研修は学ぶだけではなく環境が異なる場所で勤務する方々との交流も魅力の一つとも考えています。来年度は方法を工夫し、助産師同士がより繋がることができる研修を盛り込めるように企画していきたいと思えます。



← 研修会の申し込みはこちらから



オンラインライブ配信の様子
12/12 助産所部会・保健指導部会企画研修

産前産後ケア事業部運営委員会 ～産前産後ケア事業の経過と将来的ビジョン～

産前産後ケア事業部運営委員長 毛利 多恵子

2021年度は、神戸市訪問型産後ケア事業の委託先となり11月ごろから準備をし、12月から実際の訪問事業をはじめました。神戸市の産後ケア事業は、産後1年間、従来の入所型7回、通所型7回が実施されており区役所と産後ケア施設が担当しています。訪問型も産後1年間5回利用でき、神戸市が委託した兵庫県助産師会が事務局となって運営しています。

訪問を担当する助産師を登録助産師とし、その基準は、日本助産師会が認定する産後ケア実務助産師研修修了者または初年度のみ兵庫県助産師会の産後ケアに関する研修をすべて受けていただいた方で今後産後ケア実務助産師研修修了申請予定の方としました。現在25名程度の方が登録助産師となっています。最初は10名の登録助産師で開始し、現在は22名体制です。12月は40件、1月は59件と訪問依頼数も増えてきています。また事務局対応をする助産師派遣調整の仕事もしています。現在9名の助産師が担当しています。

訪問型産後ケアの利用の仕方は、利用者は、最初の申し込みはe-kobeから、2度目以降の申し込みは助産師会へのメールからできます。事務局では、利用者の調書をつくり、ラインで訪問助産師の選択決定、訪問後は3日以内に報告書受取、神戸市への報告の仕事をしています。事務局助産師と登録助産師がチームとなり、研修やケースカンファレンスをしながら、より使いやすいシステムの改善やケアの質向上を目指しています。

将来的には、ケアを提供できる場である会立助産所開設を長期目標においています。産後ケアだけでなく、地域の助産師が産前から産後までの継続ケアができるよう本来の助産師業務が展開できるよう取り組んでいくことが課題です。



事務局の様子

子育て・女性健康支援センター運営委員会 ～『妊娠・子育て電話相談』活動報告～

子育て・女性健康支援センター委員長 竹中 靖子

コロナ禍において、専門職である助産師に、妊娠中・育児の悩みや困りごとを気軽に相談できる場として、2021年10月より、電話相談を開始しました。平日9～18時と21時～23時、土日祝日は12時～18時に相談を受け付けています。2月10日までの相談件数は249件、徐々に増えています。相談員の登録は、現在18名であり、3時間ごとに区切られた担当時間を1～4名の複数人で担当して、各自の自宅等での待機をします。

産後・育児中の女性からの相談が約半数を占め、相談内容は、妊娠中、育児中のちょっとした質問から、家族・夫婦関係になど多岐にわたります。サポートや、気軽な相談相手がいない状況で育児をしているケースも多く見受けられ、コロナ禍の状況を反映しているのではないのでしょうか。傾聴、助言、情報提供をしますが、なかには自治体や保健センターに連絡をとり、連携することもあります。午前、午後、夜間いずれの時間帯もまんべんなく利用があり、予約なしでいつでも相談できることのニーズもあると思われます。

相談員は、情報共有を目的としたオンラインミーティングを2週間ごとに行い、相談対応の振り返りを行っています。電話の対応という難しさもありますが、顔が見えないからこそ打ち明けてくださるような悩みもあります。不安や困りごとを抱える方に、寄り添う気持ちで対応することを目指していきます。



福祉厚生委員会 ～会員の健康と安全・資質の向上を願って～

福祉厚生委員長 長井 順子

福祉厚生委員会では、会員の健康と安全・資質の向上を目的として、より良いケアを提供するために様々な事業を展開しています。感染症について敏感になっている今日において、母子に密接なケアをする助産師自身の感染症抗体価を提示することは非常に有効で安心感につながります。抗体価カードを「医療従事者のためのワクチンガイドライン」と合わせてHPよりダウンロードし訪問時に携帯していただきたいと考えています。

また、ケアをする助産師側のメンタルケアの一環としてリフレッシュヨガ体験を企画しました。日々感染防止に努めながらきめ細かい母子支援に心を砕いている中で、時に疲弊し消耗した身体のみならず心をもリラックスさせる手段として呼吸法や瞑想などを取り入れたヨガは最適です。オンラインの特性を生かして、自宅で人の目を気にせずに身体を動かし自分自身の心と静かに向き合うことを目的として3月5日に配信いたしました。体験された皆様、いかがでしたでしょうか。きっと爽快感とともにさらにアップデートした自分に出会うことができたのではないのでしょうか。今後も会員の健康と安全のために様々な事業を提案していきたいと思えます。

災害対策委員会 ～災害時も慌てず行動しよう『安否確認訓練の目的と重要性について』～

災害対策委員長 細川 由美子

今年も12月に行った安否確認にご協力いただきありがとうございました。会員の皆様にはメールで安否確認訓練を行い、返信があったのは約半数（昨年度約3割）の会員からでしたので、災害時に十分発揮できるとは言い難い状況です。

その原因はいくつかの要因があると思いますが、まずは、安否確認訓練が重要な理由をご理解いただくことです。この訓練は、兵庫県助産師会の会員の被災状況を確認して支援を考えること、近隣の災害状況を把握すること、そして災害時に兵庫県助産師会会員として期待される活動の目処を立てるためにも必要です。また、助産師個人としては、マニュアルがどこにあるのか、どこに何が記載されているのかなど災害時の対応を確認する機会になります。今後、メールというツールが相応しくないのかもしれないかもしれませんので、再考する予定です。

訓練によって、もしもの際にも慌てず行動できるようにしましょう。



専門部会だより

助産所部会 ～助産力を存分に発揮できる助産所を目指して～

助産所副部会長 島崎 明代

助産所は、助産所ガイドラインに基づきローリスクが対象ですが、薬剤の使用や処置、搬送のタイミングなどの母子の命にかかわる緊急時の対応が最も重要になります。

兵庫県助産師会は、先代たちが積み重ねた信頼により充実した医療連携のもと、妊娠期からの継続ケア、幸せな出産、前向きな育児、女性に寄り添う助産師としての役割を存分に発揮できる場所です。現在直面している問題は、アナフィラキシーショック時の対応であり、高度管理医療機器等の販売薬局を探すことに苦戦中です。また、急な出産などに対応するための人員不足、空床を利用した産後ケア入院は、昨年対象が1歳までに広がり、保育問題などのマンパワー不足も課題になっています。今後、神戸市訪問型産後ケア事業に従事する登録助産師の質の向上や活動の幅を広げる目的も含めて、協力体制を作るなど、リアルな助産所を感じてもらえる機会になればと考えています。今後も時代の流れ、女性の権利や個性に対応し、幸せな出産と安全安心な助産所、助産師の開業権を守っていけたらよいと思います。次年度は新規助産所開業の予定があります。助産所間で情報共有し支え合える部会でありたいです。

保健指導部会 ～これからの助産師『この6年間を顧みて』思う～

保健指導部会長 坂田 富貴子

はじめに、6年間部会長を務めさせていただきました。ひとえに会員の皆様のご理解とご支援の賜と感謝いたします。

さて、少子高齢化が加速し、母子を取り巻く環境がますます複雑な中、コロナ禍での感染拡大がとどまることなく経過し、母子だけでなく支援者も心配が絶えない現状です。

2年にわたり、オンラインでの会議や部会集会を開催しました。

開設届けを出したが活動が留まっている。地域での活動ができない。という現状や新規開設者もあり、また、従来からの自費での産後ケアに加え産後ケア事業も各市町ですすめられる昨今、今後の保健指導部会の助産師の仕事の仕方や資質の向上も期待されています。

集団での指導が断たれ、出産を迎え、産後を過ごす母子と家族が不安を抱える中での相談やケアで寄り添う助産師が、地域の中で他の関係機関と連携を保ち人を大切に安全なケアが担っていけるような場所の提供をしていきたいと思っています。

助産所経営ノウハウの学習会として、第1回助産師譚及び相談会オンライン会を3月16日に開催しました。継続企画いたしますので、ご参加をお待ちしています。



← 助産所マップはこちらから



勤務助産師部会 ～自立した助産師を目指して～

勤務助産師部会長 寺嶋 智穂

今年度、助産師のアセスメント能力の向上のために「CTG モニタリングを事例から判読する～中井先生講義応用編」と「プロフェッショナル助産師のわざ」の2つ研修会と自己のキャリアデザインを考えるために「地域で活動する助産師の話」のシンポジウムを開催しました。研修会では自己の助産ケアを振り返り、助産ケアを探求していく姿勢の大切さを学びました。またシンポジウムでは助産師の多様な働き方と、その責任や覚悟を知ることができました。昨年度から助産師の交流の場としてオンラインで「勤務助産師部会 わいわいカフェ」を定期開催しています。私自身、助産師会の活動に携わることで、助産好きの助産師仲間と助産に関する事柄を創り出す作業はとても楽しく、助産師は無限の可能性を秘めていることを改めて感じています。令和4年度も皆様と一緒に助産の魅力を深めていきたいです。

勤務助産師部会「わいわいカフェ」過去1年間のテーマ

第1回	思いがけない妊娠 SOS 活動
第2回	新人を育てるにあたって、大事にしていること
第3回	EPDS どう活用していますか？ ～少し点数の高い、気になる褥婦さんへの対応～
第4回	オンラインを活用した助産活動
第5回	仕事と家庭の両立、どんな工夫をしていますか？
第6回	助産師としてのキャリアアップを考えよう！
第7回	どうする？どうしている？産前産後ケア

第8回 Zoom開催
勤務助産師部会わいわいカフェ
テーマ
「アドバンス助産師、どう活躍していますか？」

日時：2022年4月23日（土）

10:00-10:05 開会・オリエンテーション
10:05-10:25 話題提供
10:25-11:25 情報交換や意見交換
11:25-11:30 兵庫県助産師会の活動報告

Zoom
ミーティングID: 836 4336 6210
パスコード: 078017

助産師対象。どなたでも参加できます。
申し込み不要ですので、気軽に参加してください。

事務員スタッフの紹介

辻井です。

昨年 11 月末から神戸市訪問型産後ケア事務スタッフとしてお世話になっております。前職では、教育機関で事務に携わっておりました。前職と異なる業務でご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、早く仕事に慣れるように頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。(辻井 千恵)

古家です。

昨年 10 月から半年間勤務することとなり、主に研修事務を担当しています。「助産師のちからアップ」オンライン研修は、昨年 9 月から本年 1 月 29 日をもってライブ研修を終了し、2 月からは録画配信研修をスタートしました。年度末タイトなスケジュールにもかかわらず、受付を始めた 1 月の開始直後は全国からの多くのお申し込み・お問い合わせがあり、てんてこ舞いの毎日。振込確認メールの配信やお問い合わせメールの返信が遅くなり、受講申込者の皆様にはご心配をおかけしました。誌面を借りてお詫び申し上げます。

また、録画配信研修の配信のお手伝いも時々させていただくこととなり、慣れない Zoom に冷や汗を掻きながらも、もう一人の担当と力を合わせて乗り切っています。研修を配信していると、講師の先生のご講義も自然と耳に入ってきます。門外漢の私にとってもためになるお話も多く、業務の傍らではありますが、興味深く拝聴しています。

ある日のこと、お話に耳を傾けつつ仕事に励んでいますと、赤ちゃんのお母さんに寄り添って、あなたはそう感じたのですねとその気持ちを受けとめることも大切だとおっしゃっているのが聞こえてきました。辛い気持ちを抱えた人を導こうとするだけでなく、まずはその気持ちを受け止めてあげることもその人と同じ視線の高さで伴走することになるのではないかと思います。これは仕事や日常生活ではなかなかできないけれど、これからは少し意識を変えて行ってみたいと思いました。パソコンの準備をしながら、次の研修のお話を楽しみにしているところです。(古家 真理子)

堀江です。

経理を担当しています。日頃は経費申請にご協力頂きありがとうございます。この夏で 8 年目に入りますが、昨年から耳が聞え難くなり耳鼻科を訪ねてみたら加齢だそうです。孫 3 人のばあば何とか頑張っています。入職時からいらした福原さんとお別れすることになり不安でいっぱいですが、会計作業をこれからもしっかりやっていきたいと思います。より一層のご協力よろしくお願いたします。(堀江 清美)

福原です。

この 3 月末にて退職することになりました。9 年間、母子に関わる助産師の方をみて、たくさんのことを学ばせていただきました。事務業務においては、行き届かないところもあったかと思いますが、会員の皆様から温かいお言葉をかけていただきまして、本当に感謝しております。ありがとうございました。これからも、兵庫助産師会が職能団体としてますますご発展されますことを心よりお祈り申し上げます。(福原 文世)

辻井さん、古家さん、堀江さん、いつもありがとうございます。
福原さん、今までありがとうございました。



	助産所部会	保健指導部会	勤務助産師部会			
新入会員	 ↑ 入会申込はこちらから	分藤 美和 杉原 真理 牧野あゆみ 井上 有里 安岡 美和 長沼由妃子	田中 愛子 細見野々花 辻 佳愛 波来谷匠花 シャウト康沙代	藤岡 勢子 小島 光華 横尾さち子 鳥越 奈々 新居 りな	山本 幸代 大瀨 絢子 岸野 真弓 小森 敬子 田村 康子	野村 悦子 成田 夏苗 寺脇 寛子 青木 日和 小紫 亜希
		転入 茨木 敦子	松尾 益美 山本 恵梨	松原久美子 篠原ひとみ		

稲垣よしゑ先生百寿お祝い

令和3年度定時社員総会において、稲垣よしゑ先生の百寿のお祝いをさせていただきました。稲垣先生は1921年（大正10年）6月26日にお生まれになり、2021年（令和3年）100歳を迎えられました。

先生は1948年（昭和23年）出張開業を、1952年（昭和27年）には伊丹市で稲垣助産院を開業され、助産師として長く地域に根差して活動を続けてこられました。総会にはオンラインでご出席いただき、心温まるメッセージをいただくとともに、伊丹市助産師会作成のインタビュー動画を拝見いたしました。

兵庫県助産師会からは百寿のお祝いと、日本助産師会特別功労者表彰受賞のお祝いのお花を送らせていただきました。稲垣先生、これからもお元気で、素敵な笑顔でお過ごしになられることを心からお祈り申し上げます。（会長 國廣 晴美）



定時社員総会のお知らせ

日時：2022年5月15日（日）

場所：兵庫県学校厚生会館 3階大会議室

現地開催を予定しております。詳細は追ってご連絡させていただきます。



兵庫県助産師会からの一斉メール配信をご活用ください

当会にメールを登録されている会員の皆様には、当会の活動に関する情報のほか、厚労省、兵庫県の行政からの情報や日本助産師会や他団体からの情報提供をしています。是非ご活用ください。

届いていない方やアドレスを変更された方は[こちらから](#) →



編集後記

広報委員会では、ホームページリニューアルとSNS活用に向け、準備をすすめています。

次年度は、ICTを駆使し、よりよい広報活動が展開できるようがんばります。

広報委員：奥陽子・上月晶葉・杉原真理・徳重朋子・松岡倫子 担当理事：西村明子

